

S I D R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第4巻第33号

第33週(8月9日~8月15日)

発行年月日:平成16年(2004年)8月20日

発行:滋賀県立衛生環境センター内

滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

1) 全数報告の感染症(1類~5類)

感染症類型	疾患名	報告数 (33週)	累積報告数		平成15年報告数	
			滋賀 (33週)	全国 (33週)	滋賀	全国 ^(*)
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	6	313	7	459
	腸チフス	0	1	38	0	60
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1	16	2096	8	2635
4類感染症	E型肝炎 ^(*)	0	1	20		
	オウム病	0	1	31	1	44
	ツツガムシ病	0	0	97	2	380
	マラリア	0	1	37	0	77
	レジオネラ症	0	0	86	1	143
5類感染症	アメーバ赤痢	0	6	358	3	504
	ウイルス性肝炎	0	2	179	3	634
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	103	3	115
	後天性免疫不全症候群	0	4	700	8	949
	ジアルジア症	0	1	53	0	99
	梅毒	0	2	303	2	493
	破傷風	0	2	58	1	69
	急性脳炎	0	0	39	0	98

*1:平成15年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

*2: " 感染症法の改正前のためE型肝炎のみの集計はされていません。

2) 定点把握の対象となる5類感染症

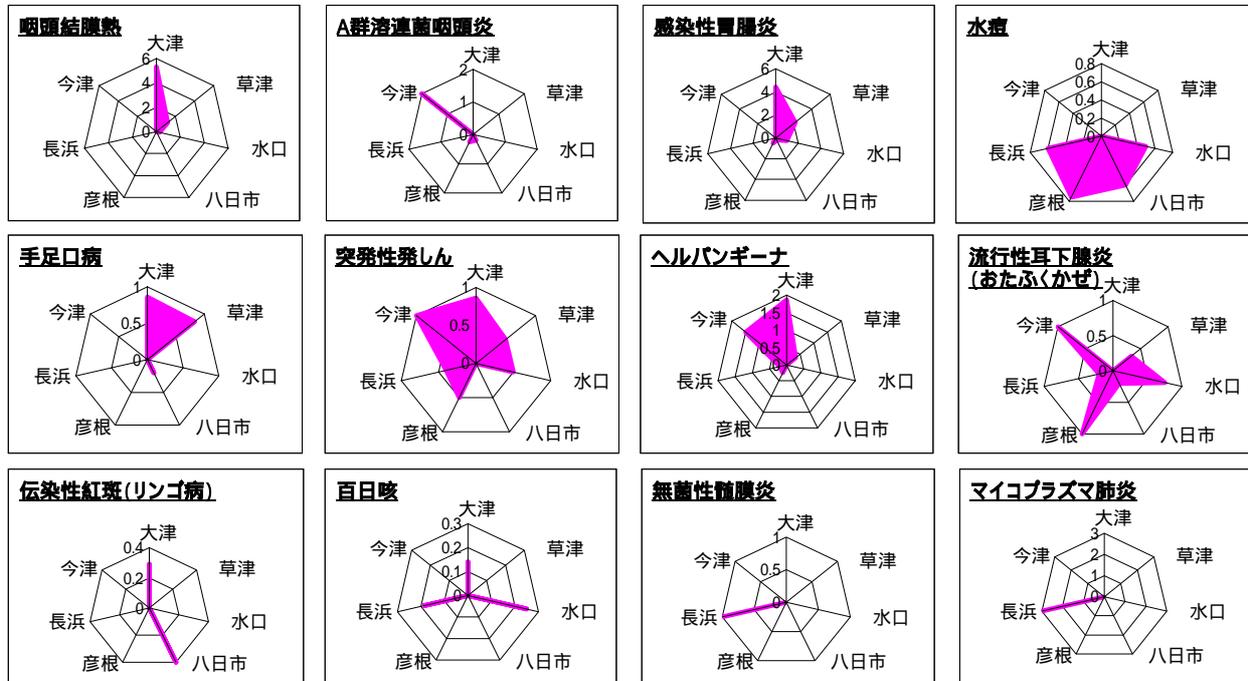
(1) 疾病別・週別発生状況

疾患名	定点当たり患者数 (前週より増加 前週と同じ 前週より減少)											
	28週		29週		30週		31週		32週		33週	
	(7/5~)	(7/12~)	(7/19~)	(7/26~)	(8/2~)	(8/9~)	29	30	31	32	33	
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0						
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0						
咽頭結膜熱	1.70	2.18	1.64	1.45	1.27	1.36						
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	0.52	0.52	0.15	0.18	0.27	0.18						
感染性胃腸炎	1.70	1.85	1.82	1.52	1.70	1.55						
水痘	0.82	0.45	0.36	0.36	0.21	0.33						
手足口病	0.30	0.52	0.36	0.73	0.79	0.36						
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.09	0.03	0.06	0.06	0.06	0.12						
突発性発しん	0.76	0.76	0.70	0.73	0.67	0.52						
百日咳	0	0.03	0	0	0	0.09						
風しん(三日はしか)	0.06	0	0	0	0.03	0						
ヘルパンギーナ	2.52	2.61	2.06	2.03	1.30	0.61						
麻しん(成人麻しんを除く)	0.03	0	0	0	0	0.03						
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.58	0.91	0.30	0.48	0.58	0.39						
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0						
流行性角結膜炎	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.43						
細菌性髄膜炎	0	0	0.14	0	0	0						
無菌性髄膜炎	1.00	0.29	1.14	0.86	0.57	0.14						
マイコプラズマ肺炎	0.43	0.29	0.43	0.14	0.14	0.43						
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0						
成人麻しん	0	0	0	0	0	0						

(2)疾病別・保健所管内別発生状況

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)							
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
咽頭結膜熱	1.36	5.29	1.17	0.25	0	0	0	0
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	0.18	0	0	0	0.20	0.25	0	2.00
感染性胃腸炎	1.55	4.43	2.17	1.00	0.20	0.50	0	0
水痘	0.33	0	0	0.50	0.60	0.75	0.60	0
手足口病	0.36	0.86	0.83	0	0.20	0	0	0
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.12	0.29	0	0	0.40	0	0	0
突発性発しん	0.52	0.86	0.50	0.50	0	0.50	0.40	1.00
百日咳	0.09	0.14	0	0.25	0	0	0.20	0
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	0.61	1.86	0.33	0	0	0.25	0.20	1.50
麻しん(成人麻しんを除く)	0.03	0	0	0	0	0.25	0	0
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.39	0	0.33	0.75	0.20	1.00	0.20	1.00
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	0.43	0	2.00	1.00	0	0	0	0
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
無菌性髄膜炎	0.14	0	0	0	0	0	1.00	0
マイコプラズマ肺炎	0.43	0	0	0	0	0	3.00	0
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



今週の発生状況:

保健所管内別の発生状況は上記のグラフに示すとおりですが、突発性発しんについてはほぼ県内全域から報告されています。水痘については水口、八日市、彦根および長浜保健所管内からの報告がやや多くなっています。また、伝染性紅斑、百日咳、無菌性髄膜炎およびマイコプラズマ肺炎についても少数ですが報告されています。上記のグラフ以外にも麻しんおよび流行性角結膜炎が報告されています。

- 全数報告感染症 -

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。これを全数報告の感染症といいます。

* 感染症法: 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律

- 定点当たり患者数 -

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。

* 疾患により定点数は異なります。

3) 今週のトピックス

咽頭結膜熱、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナの発生に地域的な偏り 定点把握の対象となる5類感染症の発生状況(平成16年第28週～第33週)

定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、先週(8月2日～8月9日)の報告数よりかなり少なくなっています。休診による報告数の減少が考えられるため先週との詳細な比較はできませんが、咽頭結膜熱、水痘の発生は増加しています。また、百日咳の発生が県内3保健所管内から報告されています(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフを参照)。

咽頭結膜熱については、定点当たり患者数は3週連続して減少していましたが今週はやや増加し1.36となっています。特に**大津保健所**管内の定点当たり患者数は5.29と多くなっています。また、**草津保健所**管内の定点当たり患者数は1.17とやや多くなっています。

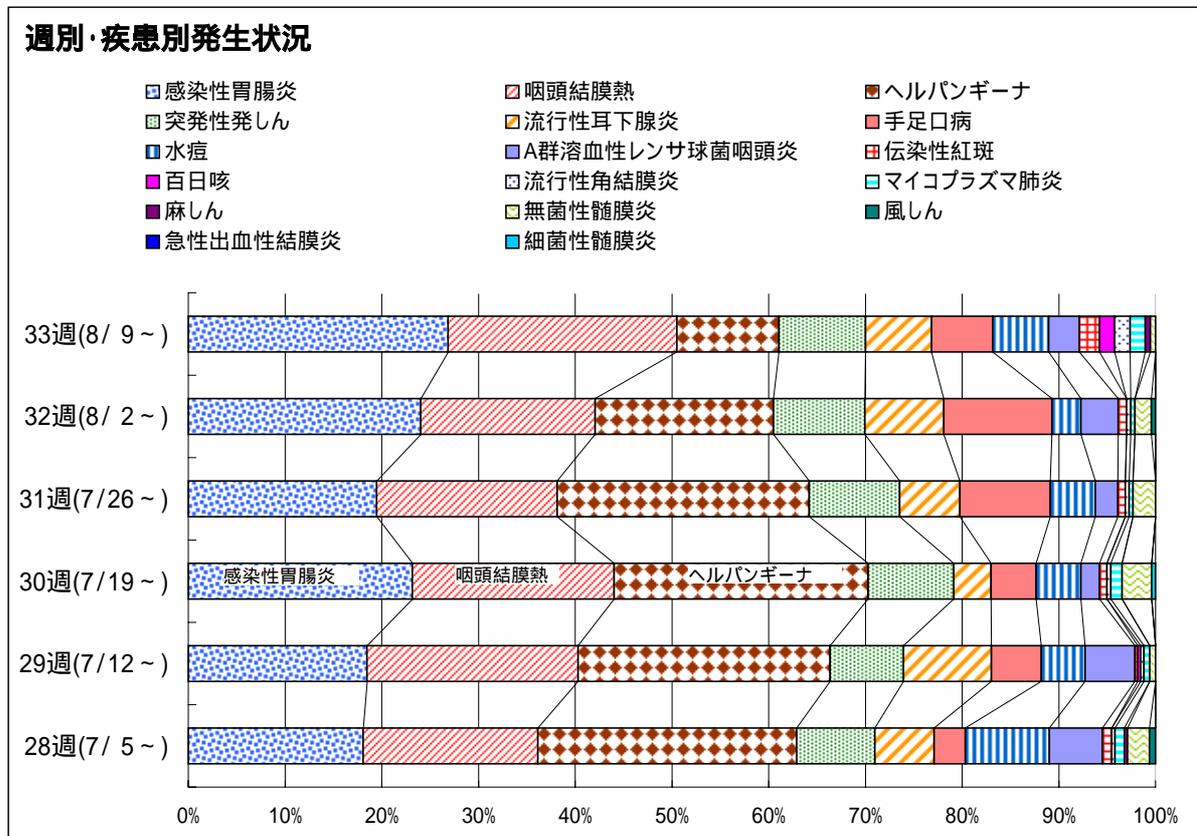
感染性胃腸炎については、定点当たり患者数は先週より減少し1.55となっていますが**大津保健所**管内において4.43と多くなっています。また、**草津保健所**管内の定点当たり患者数は2.17とやや多くなっています。

ヘルパンギーナについては、定点当たり患者数は先週より減少し0.61となっていますが**大津**および**今津保健所**管内において多くなっています。定点当たり患者数はそれぞれ、1.86、1.50となっています。

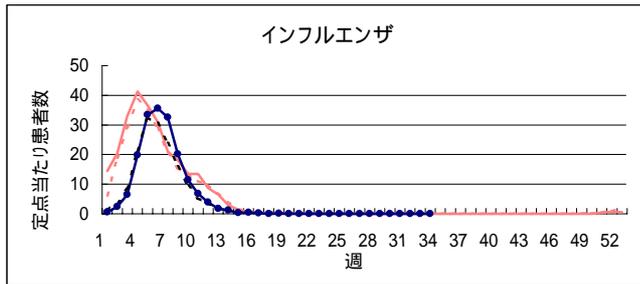
百日咳については、昨年の発生状況と比較すると、昨年は同時期に同一保健所管内からの報告がほとんどでしたが、今年(今週)は同時期に異なる保健所管内からの報告となっています。今週は、大津、水口および長浜保健所管内から報告されています。

定点把握の対象となる5類感染症の発生状況(平成16年第28週～第33週)

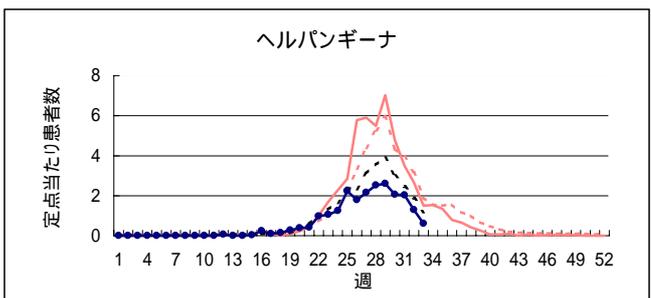
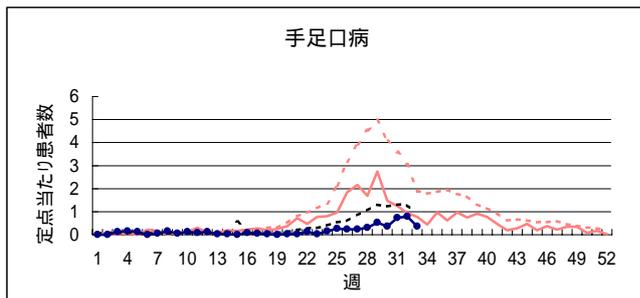
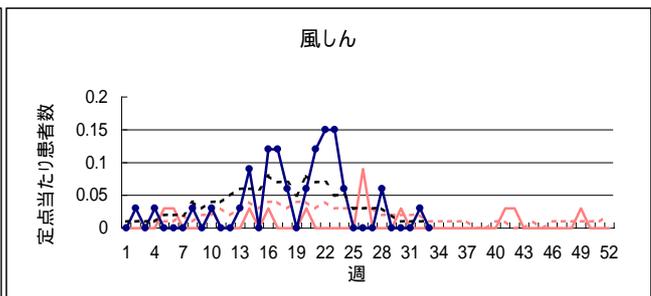
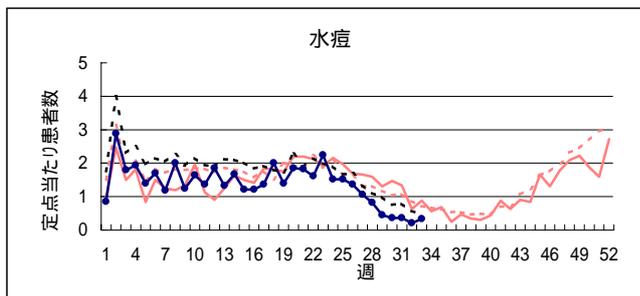
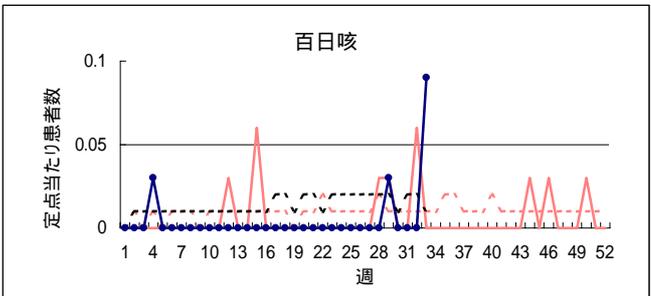
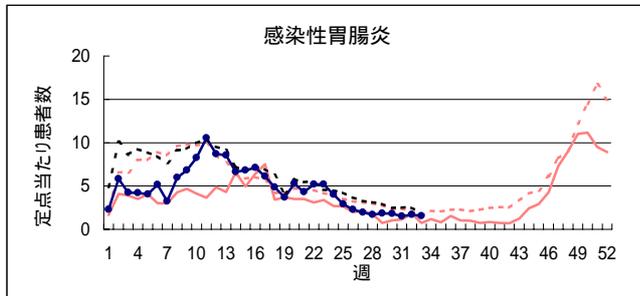
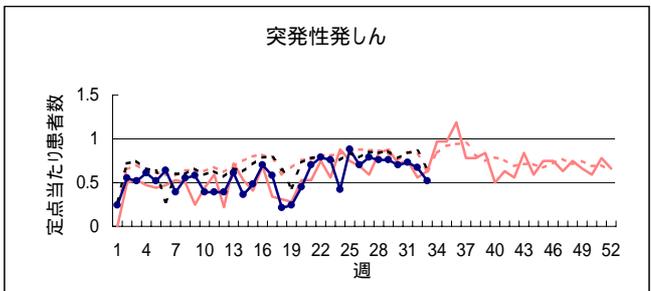
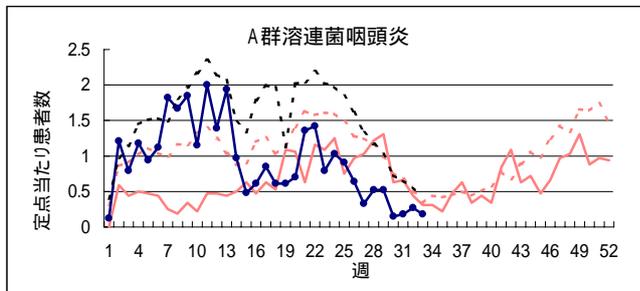
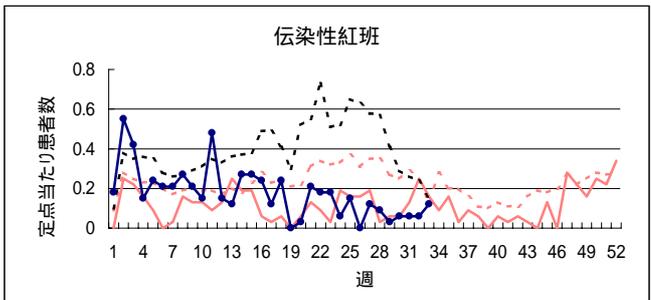
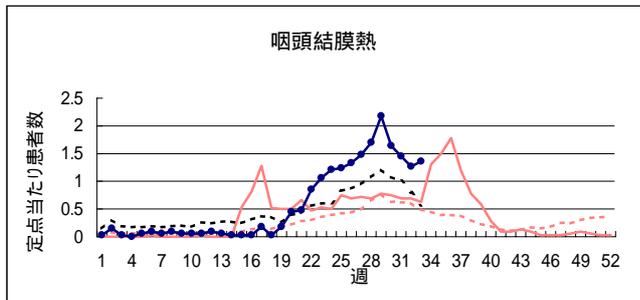
平成16年第28～33週の週別・疾患別発生状況についてみると、各週の発生割合に多少の変動がみられますが上位疾患の発生状況に変化はみられません。上位を占めている疾患は感染性胃腸炎、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ、突発性発しん、流行性耳下腺炎、手足口病、水痘およびA群溶血性レンサ球菌咽頭炎です。また、無菌性髄膜炎は減少傾向となり、マイコプラズマ肺炎はやや増加傾向を示しています。第33週においては伝染性紅斑、百日咳および流行性角結膜炎の発生がやや増加しています。



疾病別定点当たり患者数(平成16年第1週～第33週、H15.12.29～H16.8.15)



H15 { 滋賀 (solid red line)
 全国 (dotted red line)
 H16 { 滋賀 (solid blue line with dots)
 全国 (dotted black line)



疾病別定点当たり患者数(平成16年第1週～第33週、H15.12.29～H16.8.15)

H15 〔 滋賀 ———— 全国 〕
 H16 〔 滋賀 —●—●— 全国 〕

